

掃除は心を穏やかにする

日本を美しくする会
相談役 鍵山秀三郎

今は子どもだけではない、大人も含めて生活感覚というものがなくなってまいりました。人間の最小集団単位は家族です。この家族が争い事なく平和に暮らしていくためには、お互いがお互いのことを考えてやらなければできない。かつては自然のうちにそれが身について、譲り合って、それができたわけですが、今は生活感というものが失われてきたために、少人数家族であってもトイレが二カ所ないと用が足せない、あるいは洗面台が二カ所ないとやっていけないというふうになってまいりまして、他の人のことを思いやる、配慮する感覚に欠けて、これが生活感覚の欠如です。家族の中でさえそうですから、表に出て、最近の人はよく人にぶつかります。自分の持ち物をすれ違いざまに、あるいは後ろから来て人にぶついたりして小さなトラブルが社会に満ちてきました。そういう小さなトラブルが高じていくと世の中に争い事が多くなっていくます。争い事が増えれば、ひいてはそれが犯罪の元になっていく。このままだけ日本はいくら警察官を増やしたり、刑務所の数を増やしてもきつと足りなくなるに違いないと思います。そこで私は豊かな生活感覚を身につけてもらいたい。そのため一番良いのは、自分の手足、身体を使ってする掃除であると信じております。いくら清潔な場所であっても、人がやって

清潔が保たれているんでは意味がない。自分の手でやってみて初めて清潔な場を確保したことになるわけですね。近年になって「掃除は非常に大事である」と着目してくださる地域が出てまいりました。その地域で必ず起きていることは、荒れていた学級が見事に立ち直った、学校全体が良くなったという例ばかりです。先生方が生活指導の中に重要な位置づけとして取り組んでいただきたいです。一個人でもすごい例が起きております。今、私の所に姫路の刑務所から時々手紙が来ます。26歳の青年ですが、かつて恐喝を繰り返してきた人間です。その彼が私の著書を読んですっかり人間が変わって、裁判では自分のやったことはすべて認めて今、刑務所にいるんですけども、非常に模範的な行いをしていたため、刑期が短縮されました。また、愛知県のある中学校でとんでもない非行少年が二人いて、学校中がいつも赤信号が点つていてどうしようもない状態でしたが掃除によって見事に更生して他の生徒の模範になるように変わってきたり、広島で凶悪な殺人事件を犯した青年が取り調べでは犯行を頑強に否定していましたが、私の掃除の本を読んで、「私もこんな人のような気持ちになれるでしょうか」と言ったというんですね。それから取り調べが実に円滑に進んで、「近いうちに刑務所に入るから、同房の人と刑務所のトイレ掃除をしたいので掃除指導に来てほしい」と依頼状が届きました。掃除をすることがいかに人間の心を穏やかにしていくかというお話でございます。

【編集後記】共通テストの日、東大キャンパスで受験生が殺傷される事件が起き、その被害者が高校二年生だと知って大きなショックを受けた。戦後の廃墟からめざましい経済発展を遂げ、世界トップクラスの経済大国と評されているが失ったものも多い。「修身」、大人がまず我が身を修め、範を垂れ、次世代を担う若者を導くことが望ましいが大人社会の根っこが朽ちている。若者の自殺、若者が加害者になる事件が増えている。「今」を生きている私たちが傍観者、評論家になるのではなく、世のため、人のため、高き功を立て行動することではないでしょうか。自分さえ、自分の家族さえ良ければの考えで生きるならば、犯罪が低年齢化し、社会環境が悪化し、修正の手の及ばない不可逆ゾーンに入ってしまうのではと懸念している。鍵山相談役がずっと前から危惧されていることが現実味を帯びてきました。数学者、岡潔さんが著書「春風夏雨」に、「私たちの国というのは、人という水滴を集めた水槽のようなもので、水は絶えず流れ入り流れ出ている。これが国の本体といえる。ここに澄んだ水が流れ込めば、水槽の水は段々と澄み、濁った水が流れ込めば、全体が段々と濁っていく。それで、どんな人が生まれるかということと、それをどう育てるかということが、何より重大な問題になる。」と60年以上前に書いている。日本を健全化するには、行政や政治を当てにするのではなく、気づいた人が最良の方法、環境整備、トイレ掃除を実践し広めることです。 高野修滋 拜

便教会新聞

第168号

令和4年2月

便教会は、教師の教師のためのトイレ掃除に学ぶ会です。「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高め

便教会新聞発行責任者 高野修滋
〒四四五一〇八〇二
愛知県西尾市米津町天竺桂二七
T/F 〇五六三一五六―四三二一七
携帯 090 - 4215 - 1727

『便教会総会に行きたくなる理由』

小布施掃除に学ぶ会
牛山 大輔

私は第15回から便教会総会に毎年参加するようになりました。それはここで私の生き方が180度変わる程の感動と学びを体験したからです。その時の感動を言葉にするならば、「頑張って掃除をする」から「掃除をせずにはいられない」といったものでした。この言葉には自分の生き方に対する深い反省、あるいは変わりたいという願いが込められています。この突き動かされる思いだけは忘れたくない、むしろ強くしたい、そんな思いから第22回便教会総会に参加させていただきました。

開会式を終えてさっそく掃除実習に移りました。私は職員トイレのシンクや道具洗いの担当になりました。シンクの底にこびり付いた汚れをナイロンタワシで何度も擦ってようやく汚れが少しだけ落ちました。サンドメッシュや他の道具を使えば簡単に落とせることを知っていました。この時ばかりは汚れの落ちる様子をじっくり味わいたかったです。それは最近の私は道具や洗剤を駆使して効率的に汚れを落とすあまり、「大きな努力で小さな成果」を見失いがちでした。汚れが落ちるまでに時間はかかりましたが、落ちていく喜びや

達成感を味わえました。目の前と同じ課題があっても「これだけしかできなかった」と思うより「これだけできた」と感じられた方が前向きで丁寧に取り組めると思います。

汚れが一通り落ちたので次の掃除場所を探している、同じ班の大野君がいつものようにどんな場所でもどんな汚れにも怯まずキレイにする姿を見かけました。そのおかげで私もゴミの詰まった排水溝に手を突っ込む勇気をいただきました。ゴミを一つひとつすくい出すと、排水溝の濁っていた水がいつのまにか透き通っていることに気がつきました。僅か数CCの水ですが、その透明感私の気持ちを洗い清めてしまう程の力があることを感じました。この時、たとえ小さく目立たないとしても確かな仕事や生き方をしたいという気持ちになりました。

掃除実習を終えた後はグループ討議と活動報告でした。私が毎年期待していた実践発表がなかったのは残念でしたが、この後に大きな感動が待っているとは思いませんでした。それは安井先生の教え子達による活動報告です。高校時代のトイレ掃除を楽しそうに語る姿、自分がお世話になった町に恩返し計画を語る姿、以前は一言二言しか話さなかった子が自分の思いを自分の言葉でじっくりと語る姿に何度も胸が熱くなりました。トイレ掃除といえは多くが罰ゲームのように思いがちですが、彼らにとつ

てトイレ掃除はかけがえのない大切な機会だった訳です。その事実を突きつけられた時に、自分の仕事への向き合い方に反省の念が込み上げてきました。「好きな仕事をしていながら不満が多くないか?」「何か自分から動き出す前に諦めてはいないか?」そうした声が自分の中から聞こえて来るようでした。そして、自分の身の回りにはすぐにできることがいくつもあるのではないかと、未来を諦めずに種を撒くことからやり直してみようという思いが湧いてくるのでした。次回参加するときには彼らの前で恥ずかしくない自分でありたいです。

最後に、今回は縁あって地元の学生さんと一緒に参加できました。長野から二人で会場へ向かう道中、便教会総会の素晴らしさをどう伝えようかと考えていましたが、始まってみれば無用の心配に終わりました。それは学生の参加も多く、初心者も経験者も掃除の前には関係なく学び、老若男女を超えて語り合える機会を提供していただけたこと、何よりも私がここで感動したことを再び本人達から直接語って下さったからです。おかげさまで連れの学生さんから「次回も参加したい」という声を聞いた時は本当に嬉しかったです。今回も便教会総会で「ただ身を低くして実践あるのみ」という教育方針の生きたお手本に出会い、新たな感動をいただいたおかげで益々参加したくなりました。感謝。

令和4年 一人ひとりきれいを広げましょう。

令和4年 掃除で手をつなぎましょう

『世の中から心の荒みをなくそうの会』

信州大学院 総合理工学研究科
修士課程 二年 小池遼太

今回便教会に参加してみて、本当に感動しました。一つ目の感動は掃除が終わった後、トイレの窓から見た景色がもの凄く綺麗だったことです。そのことを一緒に参加した牛山大輔さんに伝えたら「それは掃除をした後だってことが関係してると思うよ!」と教えていただきました。私は本当にそうだと共感しました。あきらかにいつも見ている景色よりも綺麗に見えたからです。ですが帰宅して気付いたらまた元の景色に戻っていました。その理由を帰宅してから考えました。理由は分かりませんでした。気付いたら二時間近くトイレを見続けていたの、その集中力で世界を見た時に、違った世界に見えたのかもしれない。だとしたら私は普段で研究をしています。自分では一所懸命やっているつもりでも、実はあまり集中せずに取り組んでいるのかもしれないと感じました。もし、今回の二時間近くのトイレ掃除をした後の目で研究したら大発見ができる気がするし、普段の生活の中で見出すものが多くなると感じ、鍵山先生が本の中で書かれていた「気付く力」が分かりかけた瞬間でした。

掃除の途中や片付けなど色々な場面で工夫が沢山されていた事も凄かったです。始め道具をみた時トイレ掃除をするとは思えないほどの準備にびっくりしました。ですが、沢山ある掃除道具の内、五つくらいを実際に使いましたし、宮里様に「この汚れどうすれば良いでしょうか」と相談したらドラえもんみたいになにアイテムが

出てきたりと、全て実際にやりながら工夫していった道具なのだと実感しました。洗い方も水を沢山使わないようにバケツを三段階に分けて使っていたり、場谷さんが道具の洗い方の理由を一つひとつ説明して下さって、最初から最後まで発見が沢山あって楽しかったです。私はサンドメッシュを教えていたから、馬鹿の一つ覚えのようにサンドメッシュを使っていますが、会のお話の中で縄田良作さんが「環境のためにできるだけスポンジを使っている」とお話されていて反省しました。これからは一つのやり方にこだわらず臨機応変に使えるようになりたいです。

そして今回一番感動したことが参加されている方の心がとても温かく情熱に満ちていたことです。ハガキでやりとりをさせていた木原勝利先生をはじめ、参加者の方の顔つきが穏やかでとても居心地の良い雰囲気の中で「掃除をして心がすさむ人はいない」という鍵山先生のお言葉を実感しました。場谷さんや加藤さんはとてもフレンドリーで、冗談も話されていていましたが、掃除や高野先生に対する熱い思いがとっても伝わってきました。今回始めて参加した私に対して興味を持って質問を下さってとっても嬉しかったです。一緒にグループだった東海学園大学の生徒さんは去年も参加されていて、「初めは不安だったけど、参加してみたらすくすっきりした気分になって今年も参加した」と言っていました。私は色々な縁があつて今回参加しましたが、そういった縁が何もなく、大学でのゼミの先生に誘われていただけだったら参加していなかったと思います。東海学園大学の学生さんは沢山の方が

時は、暇だしいいよと言って約束したのですが、初めは全く行く気がありませんでした。なので帰宅し始めていたのですが、帰宅途中自分でもわからないのですが、何故か戻ろうと思いついた安井先生の所に行きました。それからトイレ掃除をやり始めたのですが、最初はもう臭いし、ガムは吐き捨ててあるしで、凄く戻ったことを後悔してました。ですが、掃除をしてキレイになっていく達成感が物凄く気持ち良く、さらに安井先生にひたすら褒められるのも嬉しい気持ちでいっぱいでした。掃除終了後にはカップ麺を安井先生にご馳走になって、トイレ掃除がさらにいいなとその時は思い始めていました。それから人を増やしたいとも思っていて、ちょうどライトを照らす係が欲しかったので田村と浜川を誘いました。

「カップ麺ご馳走してもらえよ」よって誘ったらすぐOKしてくれたのですが、これがきっかけで二人もその後も参加してくれるようになりました。その後も中内、坂野、吉野とメンバーが増えていき、トイレ掃除が凄く楽しいものになって行きました。そして何度か鍵山相談役が来てくださってご馳走してもらい、愛知工業高校で便教会総会までやってもらえることになっていてビックリしていました。便教会総会で沢山の人と話していると温かい気持ちでいっぱいになり、幸せな気持ちになりました。気づけば暇な日々が充実していて、凄く楽しい高校生活を送れたなど常々思っております。そして僕らが愛知工業高校を卒業して、安井先生が犬山高校に転勤になり、一年ぐ

参加されていて、参加後のコメントにもすごく感動しました。とっても素直な方々だと感じました。大野さん(安井先生の教え子)が言っていた言葉で「僕は掃除自体というよりは、この会に参加している人に会いたくて参加している方が大きい」というのがとても印象に残っています。参加されていた方々を見て、私も全く同じ気持ちになりました。そしてそういった人達が集まることで、世の中が良くなっていくという事実を感じました。世の中で大きく取り上げられるニュースは暗いものばかりです。私も普段からなんとなく世の中が悪くなっている、しかもそういった色々な出来事が私にはどうしようもできない範囲や力を持っていると感じ、どうしても気持ちが暗くなってしまう。ですが今回東海学園大学の先生が「将来先生になる学生達が、将来関わる子供の人数を考えたら今回の活動への参加にはとても大きな意味がある」とお話されていたように、私も東海学園大学の学生さんを見て凄く勇気づけられましたし、自分も自分出来ることで世の中を明るくしていこう、自分と関わる人達が明るい気持ちになれるような人になろうと思えました。

最後に私が今回一番感動したことは安井先生とその生徒さんとの関係です。一緒にグループに大野さんがいて、少し話してすぐに「ああ大野さんは安井先生が大好きなんだな」という事が分かりました。グループワークの時間では、大野さんは先生に恩返しをしたいと熱く語っていて、その態度と安井先生が前でお話されていた姿が重なって、思わず涙がでそうになりました。鍵山先生のお言葉に「関心上手の行い下手」というものがあることを思い出しました。学校

らしいは社会人になったばかりでなかなか時間が取れなかったのですが、二年目に安井先生に相談と報告の電話をした時、扶桑東小学校で毎月一回ずつ開催されているミニ便教会に誘われ、高校卒業後初のトイレ掃除が出来ました。その時、安井先生から犬山高校で便教会総会をするから来ないかと言われて、安井先生に恩返しプラス愛知工業高校の総会で会った人たちとまた会いたいという気持ちから参加しました。そして今、他にもボランティアが出来ないかと思いい小牧市で清掃活動をしようと考えているのですが、まだ分からないことだらけなので安井先生主催の「犬山をきれいにする会」で勉強させてもらい小牧市に繋げようと思っています。こういう気持ちになれたのも

安井先生や、鍵山相談役、愛知工業高校でトイレ掃除をやった仲間、今まで総会で出会った人達のお陰だと思っています。ありがとうございます!



大野 雄文くん

では寝ないように、優秀な成績をとっていても、もしそれが自分の為だけだったら何の価値もないと思います。でも今まで自分はそうなるうとがんばっていた部分がありますし今でもあります。聞いた時の関心は出来ても実行に移すことはできないことが多々あります。とっても反省する機会となりました。そして生徒さんの魅力の背景には安井先生の魅力を感じずにはいられませんでした。お弁当を私が処分し忘れてしまった時すぐに「私がやっておくから大丈夫だよ」と言ってくださったり、私と近藤先生で写真をとろうとしていたら直ぐに「写真撮るよ」と気付いてくださる気遣いが本当に凄かったです。帰りは牛山大輔さんの車に乗せていただいたのですが、途中で牛山さんに電話がかかってきて、牛山さんが「安井先生はいつも運転で眠くならないように途中で電話をかけて下さるんだよ」と言っていました。牛山さんが教えてくださらなかつたらその気遣いに気付くこともなかつたと思います。本当に心の底から感動しました。会が終わっても感動させていたいただいて、安井先生のすごさに接することができて良かったです。本当に沢山の感動をいただきました。貴重な機会を頂きありがとうございます。

『恩返し』

安井佑騎先生の教え子
大野 雄文美

僕は、愛知工業高校の定時制に通っていた時にトイレ掃除を始めました。当時暇な日々を過ごしていました。そんな時に安井先生が「トイレ掃除を一緒にやらないか」と誘ってくれたのがきっかけです。その

今号の便教会新聞に安井佑騎先生の前任校、愛知工業高校定時制の教え子、大野雄文美くんが原稿を寄せてくれました。その中の一文に、『**安井先生に恩返しプ**ラ**ス愛知工業高校の総会で会った人たちとまた会いたい**』とあり、便教会総会とは何かを言い得ています。掃除で善友と繋がり、温かさに包まれ、認められ、受け止められ、安心感を得る会です。場がきれいになって、温かく穏やかな気持ちになる。日本中、世界中で掃除をすればSDGsが達成されます。誰にでもできる簡単なことですが、理解されないどころか反対されることもあります。大野くんはじめ、安井先生と一緒に掃除するご縁があった生徒は幸せですね。安井先生が播いた掃除の種が今、大野くんの中で生長し、新しい一步を踏み出そうとしています。教科指導も教育ですが、大野くんの心を揺さぶり、一灯を点すところこそ真の教育だと思えます。物理学者、アインシュタインは「**教育とは、学校で学んだすべてを忘れてしまっても残っているものである。**」覚えていることは授業の内容ですか？違いますよね。先生の癖とか先生がしてくれた雑談話、友達との思い出ですよ。先生が繰り返し繰り返し言動で示してくれたことがすり込まれるんですね。家庭でも学校でも子どもの発達段階に応じて基本、ゆるがせにできないものを繰り返し言動で伝え、子どもたちにすり込むことが大事です。大人、親、教師は自分の**たが**が緩まないように掃除に学ぶ実践を深めていきましょう。「これからの日本は若者の成長が楽しみだなあ」というふうになるよう、みんなでがんばりましょう。

高野修滋 拝